

反戦 鶴見さんの言葉を胸に

パート

(京都府 47)

哲学者であり評論家の鶴見俊輔さんが亡くなられた。鶴見さん

は「九条の会」設立の呼びかけ人として、集会や講演を通じて、いつも護憲の大切さを伝えてくださった。

中でも2009年5月、京都市山科区であった講演会でのお話は忘れられない。鶴見さんは体調不良で入院中。医師に止められたが、20分だけなら、と会場にかけつけてくださった。以前の講演会の時より痩せていたが、眼光はするどく口調もしっかりとされていた。米ハーバード大でのエピソードや憲法9条への思い、戦争体験など多岐に

渡ったが、戦艦武蔵に乗っていた知人から聞いたという話が印象に残った。

「武蔵には17、18歳の兵士も乗っていた。撃沈され、彼らは『お母さん』と叫びながら海に沈んでいった。奇跡的に助かった知人はその叫び声が忘れられないという。その若者たちの叫び声が、今の国会に届いているだろうか？ 全く届いていない。今こそ、その叫び声を国会に届けなければいけない」

講演は1時間近くになっていた。「お母さん」と叫ぶ鶴見さんは、涙声だったと思う。鶴見さんが残してくれた言葉をしっかりと胸に刻み、これからも反戦平和を訴えていく。

与党議員に「反対」伝えよう

無職

(富山県 74)

「今回、安全保障関連法案に賛成票を投じるなら、次回の選挙ではあなたには投票できません」。私は自分の選挙区の衆参現職議員2人に手紙を書きました。ともに自民党議員です。

法案の審議が参院で始まりま

す。9月には「60日ルール」で衆院に戻るかもしれませんが、反対の動きは全国的な展開を見せています。廃案に出来るのは国会だけです。野党に期待したいところですが、現状では野党だけでは廃案にできません。

でしたから、我々は法案そのものについて意思表示をする機会を与えられています。私は議員への手紙に「党議拘束にははられる立場はわかりませんが、国民は安保法案成立に恐怖感を抱いています。国論を二分するような法案はぐり押しすべきではないでしょう。いったん廃案にしようという意見を党で議論して下さい」などと書きました。

はがきでもファクスでもよいのです。「今回、賛成するならばあなたに投票しない」と地元の与党議員に伝えてください。次回選挙で我々は、法案の内容や各議員の行動を見た上で意思表示ができるのですから。